

平成30年度学校評価書

北海道知内高等学校

目指す学校像	目指す生徒像
1 地域に信頼され選ばれる学校	1 礼節を尊び、豊かな人間関係を大切にしている生徒
2 生徒の可能性を高める学校	2 豊かな感性と思いやりの心を持ち、行動する生徒
3 豊かな人間性を育む学校	3 意欲と根性で目標に向かって挑戦し、やり抜く生徒

自己評価結果及び学校関係者評価(A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する)

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	評価	改善・充実の方策	学校関係者評価
教育活動	学習指導	基礎的・基本的学力の定着 学習習慣の確立 進路を実現できる確かな学力の向上	①コース制や習熟度別授業等による進路実現に向けた学力の保証	1 アカデミック:生徒の実態や進路希望に応じた授業を展開するための授業改善が行われたか。	B	生徒の実態に即し、希望進路実現に向けた授業が意識されている。学力の低い生徒への支援についても、学習支援員による指導、放課後の個別指導、考査前の指導などきめ細かな支援が行われている。家庭学習も長期休業中などに組みませ、休業明けの試験にも反映させるなど工夫されている。 今後はコース制が変更となっていくので、コース選択のための事前指導を適切に行う必要がある。また、日常的な家庭学習への啓蒙を継続したい。 習熟度別授業のそれぞれのクラスの目標設定を適切に行い、より生徒の実態に即し、進路希望に応じられるように授業内容についても意識を高めたい。	B
			②家庭学習の推進	2 ベーシック:生徒の進路希望に応じた検定・資格の取得を推進し、昨年度よりも検定等の合格者が増えたか。	B		
			③進路指導	3 日常的な学習習慣を確立させるような指導方法を各教科で検討し、段階的に取り入れることができたか。	B		
	生徒指導	安心安全な学校生活 良好な人間関係の形成	①いじめ防止対策の充実	4 学校いじめ基本方針に基づき、いじめ防止委員会が中心となって組織的な取組を行うことができたか。	B	小さな変化等も見逃さない学級担任や教科担任等の観察、職員間の連携を図る必要がある。また、そのような小さな変化を職員一人で判断せず、学年、分掌等複数で把握し、判断するようにしなければならない。 行事は生徒会担当を中心に適切に計画され、生徒中心に実施され、満足感が高い。今後は生徒会担当の負担を減らすべく、各係が計画的にそれぞれの責任を果たすようにしたい。	A
			②学校行事の充実	5 生徒が主体的に行事を運営することによって、達成感、満足感を得られたか。	A		
	進路指導	進路決定率100%	①キャリア教育の推進とガイダンス機能の充実	6 進路シラバスの工夫・改善により、適切な情報提供や支援を生徒や学年に行えたか。	B	今年度も進路決定率は100%となった。3学年中心に四者面談を行い、きめ細やかな指導が実を結んだものである。 進路シラバスについては進路指導部で改訂が行われた。三年間を見通した改善が図られており、今後適切に指標として扱い、有効活用すべきである。 講習や個別指導は長期休業、放課後を中心として熱心に行われた。今後、より効果的な時期、期間、内容について検討していく必要がある。	B
			②進学者向けの講習体制の確立	7 各教科・分掌との連携により、講習や個別指導を適切に行えたか。また、受講者の人数を増やす工夫を行えたか。	B		
	健康安全指導	心身の健康増進 安全意識の向上	①教育相談の充実	8 教育相談を通し全教職員が生徒理解に努め、生徒の悩みや不安を解消できたか。	B	生徒指導部により気づきメモが導入され、生徒の小さな変化への対応が図られてきた。また教育相談も計画的に行われて、学級担任以外の先生との面談も効果的である。今後も面談に限らず様々な機会を捉えて生徒理解に努めていきたい。	B
			②生き方に関する指導の充実	9 日常的な指導と外部講師による講話などを活用し、年間を通して指導することができたか。	B		
学校関係者意見							
学校運営	信頼される学校づくり	開かれた学校づくり 選ばれる学校づくり	①学校教育活動の公開推進	10 公開授業参観や行事などの見学者を増やすための実施方法の工夫・改善がなされたか。	B	見学旅行発表会、地域創生学習発表会などの告知をHPで行った。来場者は多くはなかったが、様々な場面で公開を呼びかけ、保護者や地域の方々との連携や信頼感を深めることは大切である。今後も意識しながら行事を行っていきたい。 学校運営協議会は4回実施し、様々な意見を学校運営に反映させてきた。各行事などより学校の実情を見ていただいてさらに改善するための意見を伺いたい。また他校、他地域の実践例の交流も図っていく。	B
			②学校評価の充実	11 学校運営協議会による学校関係者評価により学校改善に繋がる学校評価が実施できたか。	B		
			③入学者数の確保	12 学校説明会、中学校訪問、学校便りやHPによる情報発信の充実により、入学者数確保に努めたか。	A		
	組織運営	学校課題の解決を推進する組織力の向上	①組織としての業務推進	14 部長・主任をリーダーとして、適切な役割分担のもと組織として分掌・学年業務を推進できたか。	B	分掌長や学年主任がリーダーシップを発揮して分掌や学年を運営している。今後は定期的な分掌、学年等の会議をもち、見直しをもちながら計画を実施していくようにしたい。 会議は連絡が討議かが明確化され、効率的な進行ができていく。 情報共有については物足りないという意見も見られる。朝の打ち合わせにおける全体周知のみならず、文書による周知や主任を集めての周知なども行い、適切に行っていく必要がある。	B
			②情報共有の推進	15 分掌・学年の枠を超え、学校全体として情報を共有できたか。	B		
			③会議の効率化	16 分掌会議や校務運営会議における議題の精査、論点の焦点化により効率的な職員会議を行ったか。	A		
	教職員の資質向上	専門性を高めるための研修の充実	①授業力向上の推進	18 生徒による授業評価の改善を図り、その結果を授業改善に生かすことができたか。	B	後期期末考査後、各授業において生徒の授業評価アンケートをとり、自らの授業について生徒の目線から見つめ直し、改善することを行った。生徒の意欲関心を高めながら学力をつけるという目標を見失わず、自己反省を次の授業へ活かしていきたい。 二度の外部講師による生徒指導の研修を行った。また、教務部主催の公開授業とその後の学校の方向性を考える研修会は先生方の意識向上に大変役立った。若い先生方が多く、教育課程や新指導要領などについて研修会を開催していく必要がある。	B
			②校内研修の充実	19 外部講師を招いての研修や職員による研修の企画などにより学校課題解決を図るための実効性のある研修会を実施できたか。	B		
			③校外研修への参加と研修成果の共有	20 教科指導セミナー等への積極的な参加と事後の研修報告による情報の共有がなされたか。	B		
学校関係者意見等	毎回学校運営協議会に参加させていただき、学校の様子がよくわかります。本校中学校でも参考になります。女子生徒の獲得には今後も下宿等の整備が求められる。これは学校と地域が一丸となって整備する必要があると思う。						